
今日 の 力

2025年7月14日 ～ 7月20日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

7月14日（月）

天 の 神

聖書朗読 ダニエル書 2：19～28

ダニエルは王に答えて言った。「王が求められる秘密は、知者、呪文師、呪法師、星占いも王に示すことはできません。しかし、天に秘密をあらわすひとりの神がおられ、…

ダニエル 2：27～28

捕囚の民のひとり、若いユダヤ人ダニエルから、私たちは多くのことを学ぶことができるでしょう。ダニエルは負けたと思って受け身でただじっとしていたり、あるいは物事を成り行きに任せたりするタイプの人ではありませんでした。彼は、ほかの知者たちとともに処刑されると聞かされたとき、直接王のところへ行き、局面を打開するために時間をくださいと願い出ました。ダニエルは“行動を起こす”タイプの人でしたが、決して力づくで自分のやり方を押し通すのではなく、思慮深く賢明で、物事へのアプローチは巧みで、交渉により効果的な結果を導くことのできる人物でした。

ダニエルが難しい状況をうまく収めることが出来た理由は何でしょうか。それは、まずへりくだって神様のもとへ行き、憐れみと知恵を求めたことです。そして願い求めた知恵を得ると、ダニエルは、王を始めとするあらゆる者に、すべての知恵はひとりの神からくるということをはっきりと示しました。ダニエルは自分が称賛されることを求めず、ただ神様に栄光を帰したのです。

このことは今日の神の民である私たちにも言えることです。私たちの持つ知恵や能力はすべて神様から与えられるものです。ダニエルのように私たちもへりくだり、あらゆる機会を捉えて、すべてを知りすべてを与えてくださる偉大なる天の神様についてこの世に伝えていきましょう。

讃美歌 219 おのが道うちすてて

祈り 天の神様。あなた様の御前に謙虚に頭を垂れ、あなた様が福音の秘密、あなた様の御子の救いという恵みを私たちに現わして下さったことを感謝します。この秘密をこの世で分かち合うときに、あなた様に栄光を帰すことができるようにしてください。イエス様によって祈ります。アーメン。

テキサス州 ラボック / ジャン・ノックス

7月15日（火）

大いなる恐るべき日

聖書朗読 ヨエル書 2:28~32

万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。

ペテロ I 4:7

熱と風と煙と炎。サンタアナの風*がカリフォルニアの乾燥地帯を一晩中吹き荒れていました。（*編注：冬に南カリフォルニアの砂漠から太平洋沿岸の方に吹く強く熱い乾燥した風）夜明け前、煙の臭いがしたので、私たちはベッドから起き上がり避難することになりました。子供たちを起こし、写真やノートパソコン、大切な書類などを入れた箱、そして必要なものを少し持って、近くの指定避難場所へ車で向かいました。昇ってくる太陽は、山火事から立ち上る煙で覆われ、傷んだオレンジのように見えました。

私はヨエル書の『太陽はやみとなり、月は血に変わる。』（31節）という箇所を思い出しました。この日の私たちへの助言は、「備えていなさい」ということでした。私たちは当時、山火事の条件が揃っていることに気づいていたため、物理的にも心理的にも山火事への備えをしていました。消防士たちも山火事に備えていたため、対処することができました。地域のリーダーたちは避難所と避難のための協力計画を準備していました。起こり得た甚大な被害は、多少の不便が生じただけで済みました。

ヨエルは、主を求める者はシオンの山に救いを見出すと言っています。イエス様は私たちのために場所を備えていると言っておられます。『大いなる恐るべき日』がやってきても、私たちには避け所があります。私たちのなすべきこと、それは、「備えていること」です。

讚美歌 519 わがきみイエスよ

祈り 親愛なる主よ。人生の嵐から私たちを守る避け所を備えてくださり感謝します。何が起ころうとも、私たちが信仰によって心を備えておくことができるようにしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 マリブ / ティム・ウィリス

7月16日（水）

永遠の御国

聖書朗読 オバデヤ書 15~21

御名を知る者はあなたに拠り頼みます。主よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。詩篇 9:10

オバデヤ書は旧約聖書の中で最も短い書ですが、力強いメッセージが多く語られています。預言者オバデヤは、ユダの滅亡においてエドム（エサウの子孫）が果たした役割に対する神の審判を宣告しています。けれどもこの厳しい宣告の中にも希望が与えられていました。それは、ユダは再び立ち上がり、神の義が勝利するということです。オバデヤ書の最後は、『王権は主のものとなる。』という勝利の宣言で締めくくられています。

この短いながらも力強いメッセージは、聖書全体を通して語られている真理、主権は神様が持つておられるということ私たちに思い出させてくれるものです。世の中がいかにか混沌としているように見えても、あるいは正義がいかにか遠くに感じられても、神様は支配しておられるのです。神様はご自身の民を知っておられ、すべてのことを完璧な結末へと導かれます。いつの日か、すべての目が神を見、すべての心が神を主の主として知ることとなります。

先の見えないこの世にあつて、神の御国は揺らぐことなく永遠であることを覚えて私たちは平安を得ます。

悪魔世に満ちて よし脅すとも 神の真理こそ 我がうちにあれ
陰府の長よ ほえ猛りて 迫り来とも 主のさばきは 汝が上にあり
わが命も わがたからも とらばとりね 神の国は なお我にあり

— 讚美歌 267 マルティン・ルター

讚美歌 267 かみはわがやぐら

祈り 主なる神様、あなた様こそ神であつて、私たちは神でないことを知っています。今日、私たちの目を開き、あなた様の御国で満たしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / ジェフ・ケアリー

7月17日(木)

自分を見つめる

聖書朗読 ヨナ書 1:1~3、4:9~11

彼らが自分たちの間で自分を量ったり、比較したりしているのは、知恵のないことなのです。
コリントⅡ 10:12

子供の頃、私はハイライト誌*(*編注:アメリカの子供向け雑誌)の、ちょっと見ただけではわからないように他のものの形を描き込んであるのを探し出す“絵探し”が大好きでした。その絵のように、ヨナの物語の中に私たち自身の物語も重ねて見ることができます。ヨナの預言がニネベの人々の心に響き、その結果、イスラエルの国境が広がりましたが、ヨナは神様に同意するときは神様に従い、一方、神様のご計画に同意できないときは、神様に対し不従順であるように思われます。

かつて、ヨナの同胞は彼を愛国者として称賛していました。けれども、称賛されることは中毒になりかねず、自分が他者より優れていると感じることで、主権あるお方の命令を変えようとする誘惑が強くなります。それで、ヨナは逃げたのです。真の謙遜は、たとえ不都合と感じる時でも、不快と感じるときでも、そして私たちが避けたいと思う“ニネベ人”に対しても、神様が選ばれた領域において、柔軟であることが求められます。ヨナが拒んだ召命こそ、彼が最も必要としている召命だったのです。

ヨナ書は彼の不満げな様子で終わりますが、彼の人生はそれで終わりではありません。この物語の語り手がヨナ自身であるならば、彼は自分が神様に対して不従順であったことを認めています。おそらく彼は自らの失敗を語る中で真に変えられたのでしょう。彼の物語の中に、私たち自身の物語を見ることができるかもしれません。

讃美歌 247 檻をはなれこころのまま

祈り 創造主なる神様。あなた様は私を完全に知っておられます。どうか、私が自分の人生を振り返り、あなた様が量られるように自分自身を量ることができるよう助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。



テネシー州 ロックフォード / リネット・カーナハン・グレイ

7月18日(金)

小さな選択の積み重ね

聖書朗読 ミカ書 6:8

主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。
ミカ 6:8

トンプソン一家が近所の公園を車で通りかかったとき、ある男性が、持っていた袋が破れて散乱した食料品を必死に集めているのに気がつきました。その日やることがたくさんあって、一瞬、通り過ぎようかと思ったのですが、トンプソン氏は車を止め、家族全員が車から降りて、その男性が品物を拾い上げるのを手伝い、余分の袋まで差し出しました。

その後、彼らは車に戻り、先へ進みましたが、息子は「どうして停まったの?」と尋ねました。

トンプソン氏は、「人助けは私たちがどのような者であることを示す行いの一部だから」と答えました。

ミカ書6章8節は、神様が私たちに、公義を行い、誠実を愛し、へりくだって神とともに歩むよう求めておられることを思い起こさせてくれます。私たちは自分のやることに没頭しがちですが、神様は周囲の人々に気づき、気を配るようにとっておられます。正義と憐れみは大げさな行為ではなく、容易で日常的な私たちの選択によるものなのです。

困っている人を助け、彼らに思いやりを示し、耳を傾けることを選ぶとき、私たちは神様の愛を映し出す者となります。このような小さな行いが大切であり、それによって家族はキリストに従う者たちに形作られます。私たちの人生は、多くの小さな選択の積み重ねなのです。

讃美歌 339 君なるイエスよ けがれし我を

祈り 主よ、私たちが公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなた様とともに歩むことができるようにしてください。今日、あなた様の愛を必要としている人々に気付くことができるようお導きください。イエス様のお名前によって。アーメン。

コロラド州 デンバー / アンナ・ポーター

7月19日(土)

物語に引き込まれる

聖書朗読 マタイの福音書 4:1~11

さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。

マタイ 4:1

神様は、私たちが御言葉を単なる物語のように興味本位で読むことを意図しておられません。イエス様の荒野での誘惑の箇所を読むとき、私たちは激しい霊的葛藤の物語に引き込まれます。それは私たちも日々の歩みにおいて同じような葛藤があり、実際に個人的に起きている事だからです。

映画や本では、スリリングな怪物や壮大な宇宙戦争が描かれるかもしれませんが、この荒野での出来事は究極の生死をかけた闘いだったのです。サタンは人に対する神様の恵みの計画を狂わせようとしていました。それは私たちすべてにとって痛切なものです。

イエス様がサタンの嘘に立ち向かうために聖句を引用される瞬間は、霊的に高揚する劇的瞬間です。イエス様が、近道を選んだり悪に屈したりすることを拒まれ、サタンの誘惑に打ち勝たれたことは、イエス様のその後の宣教におけるすべての土台となっています。私たちの救い、私たちの希望、そして私たちの勝利は、あの荒野で起きたことにより得られたのです。

イエス様が勝利されたからこそ、私たちは自分の闘いにおいてイエス様から力を得ることが出来ます。私たちは一人で誘惑と戦うものではありません。イエス様の勝利は私たちに罪に抵抗する力を与え、ゴルゴダの十字架上でのイエス様の勝利によって、私たちも勝利者とされたのです。主にあって私たちは勝利するのです。

讚美歌 137 かちうたうたいで

祈り お父様、あなた様はイエス様によって私たちのために勝利してくださいました。誘惑に遭うとき主にあって堅く立つことが出来るよう助けてください。私たちが道から逸れてしまうとき赦し、みめぐみのうちに戻れるようにお導きください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィスコンシン州 ヒルズボロ / アル・コーネル

7月20日(日)

人間をとる漁師

聖書朗読 マタイの福音書 4:18~21

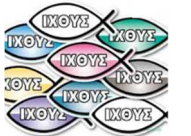
それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。

マタイ 28:19a

ある夏、祖父の農場を手伝っていたとき、私は祖父が「釣りに行こうか」とたまに行ってくれるのを楽しみにしていました。私たちは日の出から日没まで働き詰めでしたが、まれに数時間休憩を取って釣りに行くことがありました。この時、私は、ボートに腰を下ろし、あるいは埠頭で釣り糸を垂れながら、知恵を学びました。

イエス様の最初の弟子たちは、イエス様が彼らに『人間をとる漁師にしてあげよう』と声を掛けられた時どう思ったのだろうと、私はしばしば思い巡らしました。彼らはためらいませんでした。何という冒険に満ちた人生が続いたでしょう。痛み、苦しみ、困惑、そして究極的には恐ろしい死までありましたが、彼らは『人間をとる漁師』としてこの世を変えたのです。彼らはイエス様とともに網をおろし、どれほどの知恵を得たことでしょう。

イエス様は私たちが日々、ご自身とともに人間をとる漁に出るよう促しておられると思います。この世は、心の折れた、イエス・キリストしか与えることの出来ない癒しを切望している人たちで溢れています。恵みと赦しと癒しの網をおろすチャンスに目と耳を開いて、イエス様と共に働いていきませんか。この網は私たち自身の網ではなく、愛を持って「さあ釣りに行こう」と呼び掛けてくださるお方から私たちに託されたものです。しかし、その前にまず、利己心という網を捨ててから、イエス様、あらゆる者に命を与えてくださるお方に従いましょう。



讚美歌 493 つみの淵におちいりて

祈り 救い主なる神様。この世の傷ついた人々を救うあなた様のお働きに加わらせてください。あなた様が私たちの道に置かれた人々に私たちの目と心を開かせてください。あなた様の贖いのご愛という網をおろすために必要な知恵をお与えください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ブレントウッド / アールD・ラベンダー